子どものこころの発達研究センター

１　構　成　員

	平成 27 年 3 月 31 日現在
教授	2 人
病院教授	0 人
准教授	0 人
病院准教授	0 人
講師（うち病院籍）	0 人　（0 人）
病院講師	0 人
助教（うち病院籍）	0 人　（0 人）
診療助教	0 人
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	10 人
医員	0 人
研修医	0 人
特任研究員	6 人
大学院学生（うち他講座から）	0 人　（0 人）
研究生	0 人
外国人客員研究員	0 人
技術職員（教務職員を含む）	0 人
その他（技術補佐員等）	7 人
合計	25 人

２　教員の異動状況

森　　則夫　(教授 兼 浜松センター長)　（平成 8 年 4 月 1 日～現職）
武井　教使　(教授)　（平成 19 年 4 月 1 日～現職）
辻井　正次　(客員教授)　（平成 18 年 4 月 1 日～現職）
松﨑　秀夫　(客員教授)　（平成 24 年 11 月 1 日～現職）
玉井　日出夫　(客員教授)　（平成 25 年 10 月 1 日～現職）
土屋　賢治　(特任准教授)　（平成 19 年 4 月 1 日～現職）
髙貝　　就　(特任准教授)　（平成 25 年 4 月 1 日～現職）
涌澤　圭介　(特任准教授)　（平成 25 年 7 月 1 日～現職）
山田　浩平　（特任講師）　（平成 25 年 4 月 1 日～現職）
Anitha A.Pillai　(特任助教)　（平成 20 年 4 月 1 日～平成 26 年 5 月末日退職）
中島　俊思　(特任助教)　（平成 21 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月末日退職）
伊藤　大幸　（特任助教）　（平成 23 年 4 月 1 日～現職）
村山　恭朗　（特任助教）　（平成 25 年 12 月 1 日～現職）
片桐　正敏　（特任助教）　（平成 26 年 4 月 1 日～現職）
浜田　　恵　（特任助教）　（平成 26 年 4 月 1 日～現職）
浅野　良輔　（特任助教）　（平成 26 年 4 月 1 日～現職）
上宮　　愛　（特任助教）　（平成 26 年 10 月 1 日～現職）

３　研究業績

数字は小数２位まで。

	平成 26 年度	
（１）原著論文数（うち邦文のもの）	19 編	（ 6 編）
そのインパクトファクターの合計	59.76	
（２）論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
（３）総説数（うち邦文のもの）	16 編	（16 編）
そのインパクトファクターの合計	0.00	
（４）著書数（うち邦文のもの）	14 編	（13 編）
（５）症例報告数（うち邦文のもの）	1 編	（ 1 編）
そのインパクトファクターの合計	0.00	

（１）原著論文（当該教室所属の者に下線）

Ａ．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Wakusawa K, Sugiura M, Sassa Y, Jeong H, Yomogita Y, Horie K, Sato S, Yokoyama H, Kure S, Takei N, Mori N, Kawashima R.: Adaptive ability to cope with atypical or novel situations involving tool use: an fMRI approach. *Neurosci Res 90*: 72-82, 2015.【神経科学】, [2.145]

2. Asano R, Tsuchiya KJ, Takei N, Harada T, Kugizaki Y, Nakahara R, Nakayasu C, Okumura A, Suzuki Y, Takagai S, Mori N, for HBC Study Team.: Broader autism phenotype as a risk factor for postpartum depression: Hamamatsu Birth Cohort (HBC) Study. *Research in Autism Spectrum Disorders 8*: 1672-78, 2014.【精神医学】, [2.378]

3. Anitha A, Thanseem I, Nakamura K, Vasu MM, Yamada K, Ueki T, Iwayama Y, Toyota T, Tsuchiya KJ, Iwata Y, Suzuki K, Sugiyama T, Tsujii M, Yoshikawa T, Mori N.: Zinc finger protein 804A (ZNF804A) and verbal deficits in individuals with autism. *J Psychiatry Neurosci 39*(4): 130126, 2014. doi: 10.1503/jpn.130126.【分子精神医学】, [6.242]

4. 中島俊思・大西将史・伊藤大幸・高柳伸哉・野田航・原田新・田中善大・望月直人・大嶽さと子・辻井正次: 就学前の保育園生活における低出生体重児の発達の特徴：保育記録による発達尺度（NDSC）の横断データによる検討. 小児の精神と神経. 印刷中.【発達心理学】,[-]

5. 伊藤大幸・田中善大・村山恭朗・中島俊思・髙柳伸哉・野田　航・望月直人・松本かおり・辻井正次: 小中学生用社会的不適応尺度の開発と構成概念妥当性の検証. 精神医学. 56：699-708, 2014,【臨床心理学】,[-]

6. 村山恭朗・伊藤大幸・高柳伸哉・松本かおり・田中善大・野田航・望月直人・中島俊思・辻井正次: 小学高学年・中学生用反応スタイル尺度の開発. 発達心理学研究. 25：477－488, 2014,【臨床心理学】,[-]

7. 村山恭朗・伊藤大幸・浜田恵・中島俊思・野田航・片桐正敏・高柳伸哉・田中善大・辻井正次:

いじめ加害・被害と内在化／外在化問題との関連性.　発達心理学研究. 26：13－22, 2015, 【発達臨床心理学】,[-]

8. 片桐正敏・伊藤大幸・中島俊思・田中善大・野田航・浜田恵・村山恭朗・高柳伸哉・辻井正次: 一般児童生徒の強迫傾向が後の抑うつ, 攻撃性を予測するか—単一市内コホート調査に基づく縦断的検討—. 小児の精神と神経, 印刷中. 【発達心理学】,[-]

インパクトファクターの小計　［10.765］

B．筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Muramatsu-Kato K, Itoh H, Kobayashi-Kohmura Y, Murakami H, Uchida T, Suzuki K, Sugihara K, Kanayama N, Tsuchiya KJ, Takei N, for Hamamatsu Birth Cohort (HBC) Study.: Comparison between placental gene expression of 11β-hydroxysteroid dehydrogenases and infantile growth at 10 months of age. *Journal of Obstetric and Gynaecology Research 40*:465-72, 2014. 【産婦人科学】, [0.841]

2. Wakuda T, Iwata K, Iwata Y, Anitha A, Takahashi T, Yamada K, Vasu MM, Matsuzaki H, Suzuki K, Mori N.: Perinatal asphyxia alters neuregulin-1 and COMT gene expression in the medial prefrontal cortex in rats. *Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 56*: 149-54, 2014.【分子精神医学】, [4.025]

3. Mundalil Vasu M, Anitha A, Thanseem I, Suzuki K, Yamada K, Takahashi T, Wakuda T, Iwata K, Tsujii M, Sugiyama T, Mori N.: Serum microRNA profiles in children with autism. *Mol Autism.* **5**:40, 2014 【分子精神医学】, [5.486]

インパクトファクターの小計　［10.352］

C．筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. Maekawa M, Yamada K, Toyoshima M, Ohnishi T, Iwayama Y, Shimamoto C, Toyota T, Nozaki Y, Balan S, Matsuzaki H, Iwata Y, Suzuki K,Miyashita M, Kikuchi M, Kato M, Okada Y, Akamatsu W, Mori N, Owada Y, Itokawa M, Okano H, Yoshikawa T.: Utility of Scalp Hair Follicles as a Novel Source of Biomarker Genes for Psychiatric Illnesses. *Biol Psychiatry*. 2014 Sep 11. 【分子精神医学】, [9.472]

2. Balan S, Iwayama Y, Maekawa M, Toyota T, Ohnishi T, Toyoshima M, Shimamoto C, Esaki K,Yamada K, Iwata Y, Suzuki K, Ide M, Ota M, Fukuchi S, Tsujii M, Mori N, Shinkai Y, Yoshikawa T.: Exon resequencing of H3K9 methyltransferase complex genes, EHMT1, EHTM2 and WIZ, in Japanese autism subjects. *Molecular Autism 6*:49, 2014【分子精神医学】, [5.486]

3. Shimamoto C, Ohnishi T, Maekawa M, Watanabe A, Ohba H, Arai R, Iwayama Y, Hisano Y, Toyota T, Toyoshima M, Suzuki K, Nakamura K, Mori N, Shirayama Y, Owada Y, Kobayashi T, Yoshikawa T.: "Functional characterization of FABP3, 5 and 7 gene variants identified in schizophrenia and autism

spectrum disorder and mouse behavioral studies."*Hum Mol Genet 23*: 6495-6511 (2014)
【分子精神医学】, [6.677]

4. van der Werf M, Hanssen M, Köhler S, Verkaaik M, Verhey FR, van Winkel R, van Os J, Allardyce J Takei N, Ammaddeo F.: Systematic review and collaborative recalculation of 133,693 incident cases of schizophrenia. *Psychol Med 44*: 9-16, 2014.【臨床精神医学】, [5.428]

5. Kamio Y, Inada N, Koyama T, Inokuchi E, Tsuchiya KJ, Kuroda M.: Effectiveness of using the Modified Checklist for Autism in Toddlers in two-stage screening of autism spectrum disorder at the 18-month health check-up in Japan. *Journal of Autism and Developmental Disorders 44*:194-203, 2014.【児童精神医学】, [3.723]

6. Iwata K, Matsuzaki H, Tachibana T, Ohno K, Yoshimura S, Takamura H, Yamada K, Matsuzaki S, Nakamura K, Tsuchiya KJ, Matsumoto K, Tsujii M, Sugiyama T, Katayama T, Mori N.: N-ethylmaleimide-sensitive factor interacts with the serotonin transporter and modulates its trafficking: implications for pathophysiology in autism. *Mol Autism* 5: 33, 2014. doi: 10.1186/2040-2392-5-33.【分子精神医学】, [5.486]

7. Inada N, Ito H, Yasunaga K, Kuroda M, Iwanaga R, Hagiwara T, Tani I, Yukihiro R, Uchiyama T, Ogasahara K, Hara K, Inoue M, Murakami T, Someki F, Nakamura K, Sugiyama T, Uchida H, Ichikawa H, Kawakubo Y, Kano Y, Tsujii M.: Psychometric properties of the Repetitive Behavior Scale-Revised for individuals with autism spectrum disorder in Japan. *Research in Autism Spectrum Disorder*, 2014.【臨床心理学】, [2.378]

8. 大嶽さと子・伊藤大幸・野田航・中島俊思・望月直人・大西将史・高柳伸哉・辻井正次:遊び・余暇活動と子どもの精神的健康との関連. 小児の精神と神経. 印刷中. 【発達心理学】,[-]

インパクトファクターの小計　［38.65］

（３）総　　説

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 編者：森則夫・杉山登志郎：ASD と摂食障害、著書名　神経発達障害のすべて、出版社：日本評論社、所在都市名：東京都、pp.104-108、2014.【児童精神医学】,[-]

2. 土屋賢治：自閉症スペクトラムの研究はどこまで進んだか. *こころの科学 174*: 36-43, 2014.【児童精神医学】,[-]

3. 土屋賢治：発達障害のコホート研究. 臨床心理学 14: 371-377, 2014.　【児童精神医学】,[-]

4. 髙貝就：DSM-5 と成人期の病態像. 臨床心理学　14: 634-639, 2014.【児童精神医学】,[-]

5. 髙貝就：DSM-5 のインパクト. そだちの科学　22: 79-84, 2014. 【児童精神医学】,[-]

6. 髙貝就・土屋賢治：親年齢と精神疾患．精神科　24:322-327, 2014. 【児童精神医学】,[-]

7. 髙貝就：思春期の発達障害と精神科臨床における諸問題．高校生活指導　197:97-103, 2014. 【児童精神医学】,[-]

8. 髙貝就：精神疾患の合併によって学校臨床像がどう変わるのか．子どもの心と学校臨床 10:46-54, 2014. 【児童精神医学】,[-]

9. 伊藤大幸・行廣隆次・安永和央・谷伊織・平島太郎・村上隆：発達障害児者の援助に役立つ数量的アセスメント（４）関係の能力の測定:発達障害特性の把握（１）アスペハート, 37, 110-118. 2014.【臨床心理学】,[-]

10. 伊藤大幸・行廣隆次・安永和央・谷伊織・平島太郎・村上隆：発達障害児者の援助に役立つ数量的アセスメント（５）関係の能力の測定：発達障害特性の把握（２）アスペハート, 印刷中. 【臨床心理学】,[-]

11. 伊藤大幸・行廣隆次・安永和央・谷伊織・平島太郎・村上隆：発達障害児者の援助に役立つ数量的アセスメント（６）適応行動と不適応行動の評価：Vineland 適応行動尺度第二版 アスペハート, 印刷中.【臨床心理学】,[-]

12. 片桐正敏：自閉症スペクトラム障害の知覚・認知特性と代償能力．特殊教育学研究. 52(2): 97-106, 2014. 【臨床心理学】,[-]

13. 片桐正敏：学校で取り組める学業不振や理解のためのアセスメントと方向付け. 14(4): 530-535, 2014.【臨床心理学】,[-]

14. 村山恭朗：学校で取り組める不注意や落着きの問題のためのアセスメントと方向付け. 82：525-529, 2014.【発達臨床心理学】,[-]

B．筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 栗田大輔・竹林淳和・森則夫：　女性の摂食障害と食育，産婦人科の実際, 64 巻：pp61-65, 2015 年,【産婦人科学】,[-]

C．筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. 中村和彦・鈴木勝昭・尾内康臣・辻井正次・森則夫：　自閉症の分子基盤 自閉症の PET 研究について．分子精神医学. 14 巻 2 号: Page 88-98 (2014.04)【精神医学】,[-]

（４）著　　書

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 監修：森則夫 著：栗田大輔 『精神科医もできる！拒食症身体治療マニュアル』

2014.7.1【精神医学】

2. 森則夫・杉山登志郎・高貝就（分担執筆者）編著: 神経発達障害のすべて　DSM-5 対応. こころの科学増刊、日本評論社、東京、ISBN978-4-535-90431-6 2014.【児童精神医学】

3. 森則夫・杉山登志郎・岩田泰秀・高貝就（分担執筆者）編著：臨床家のためのDSM-5虎の巻. ISBN:978-4-535-98402-8　第1版、日本評論社、東京、2014.【児童精神医学】

4. 辻井正次・村上隆（監修）黒田美保・伊藤大幸・萩原拓・染木史緒（著）: Vineland-II適応行動尺度. 東京: 日本文化科学社. 2014.

5. 辻井正次（監修）萩原拓・岩永竜一郎・伊藤大幸・谷伊織（著）: 感覚プロファイル. 東京: 日本文化科学社. 2014.

6. 伊藤大幸：ADHDの疫学. 一般社団法人 日本発達障害ネットワーク（編） 発達障害年鑑—日本発達障害ネットワーク(JDDネット)年報 VOL.5. pp.75-79. 東京: 明石書店. 2014.

7. 伊藤大幸：神経発達障害とコホート研究. 森則夫・杉山登志郎（編） 神経発達障害のすべて. pp.20-26. 東京: 日本評論社. 2014.

8. 村山恭朗：ADHD（子ども）の介入. 一般社団法人日本発達障害ネットワーク（JDD ネット）（編）発達障害年鑑 日本発達障害ネットワーク（JDD ネット）年報 Vol.5, 明石書店, pp79-92,

9. 片桐正敏：ASD・ADHD の認知・神経心理学. 一般社団法人 日本発達障害ネットワーク（編）発達障害年鑑—日本発達障害ネットワーク（JDD ネット）年報 VOL.5. 明石書店（東京）, pp58-62. 2014 年【発達心理学】

10. 浜田恵：「成人期の ASD・ADHD」 一般社団法人 日本発達障害ネットワーク（編）発達障害年鑑—日本発達障害ネットワーク（JDD ネット）年報 VOL.5. 明石書店（東京）, pp82-84. 2014 年【発達心理学】

C．筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. 友田明美・杉山登志郎・谷池雅子・高貝就（分担執筆者）編著：子どものPTSD –診断と治療—. ISBN:978-4-7878-2102-7 第1版、診断と治療社、東京、2014.【児童精神医学】

2. Brugman, D. 浅野良輔 (訳) ： 中学校と矯正施設における青年の認知のゆがみの増加、予防、軽減 吉澤寛之・大西彩子・Gini, G.・吉田俊和 (編著) ゆがんだ認知が生み出す反社会的行動 —その予防と改善の可能性— 北大路書房:京都 pp. 209-221, 2015.【社会心理学】

3. Gini, G., Camodeca, M., & Caravita, S. C. S. 浅野良輔 (訳) ： 認知のゆがみと反社会的行動: ヨーロッパの動向 吉澤寛之・大西彩子・Gini, G.・吉田俊和 (編著) ゆがんだ認知が生み出す反社会的行動 —その予防と改善の可能性— 北大路書房:京都 pp. 171-181, 2015.【社会心理学】

4. Suda S, Sugihara G., Takei N.: History and perspective of psychiatry in Japan. In: Handbook of Psychiatry in Asia. Eds D Denish, S Tse, R NG, N Takei. Routledge, London (Taylor & Francis Group), June, 2015. 【精神医学】

（５）症例報告

B．筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 井上淳・星野良一・望月洋介・、大隅香苗・飯田妙子・後藤知子・高貝就・岩田泰秀・森則夫：症状ディメンションが多岐に渡り、汚染を主とする重症強迫性障害に対する森田療法 –暴露反応妨害法との併用によるアプローチ–. 日本森田療法学会雑誌 25: 159-169, 2014.【精神医学】[-]

４　特許等の出願状況

	平成 26 年度
特許取得数（出願中含む）	1 件

1. 特願番号：2014-201029
   名　　称：不注意の測定装置、システム、方法、プログラム及び記憶媒体
   発 明 者：森則夫、鈴木勝昭、土屋賢治、新村千江
   出 願 日：2014 年 9 月 30 日

５　医学研究費取得状況

（万円未満四捨五入）

	平成 26 年度	
（１）文部科学省科学研究費	7 件	（810 万円）
（２）厚生労働科学研究費	2 件	（200 万円）
（３）他政府機関による研究助成	0 件	（　0 万円）
（４）財団助成金	2 件	（150 万円）
（５）受託研究または共同研究	2 件	（　0 万円）
（６）奨学寄附金その他（民間より）	1 件	（ 70 万円）

（１）文部科学省科学研究費

武井教使：挑戦的萌芽　（主任・2年間）いじめによる精神健康被害の大規模疫学調査及びいじめ予防プログラムの実施とその効果．平成26-27年、210万円

土屋賢治：基盤研究C　（主任・3年間）自閉症スペクトラムのstate marker－注視点検出装置の臨床応と展開、平成25～27年度、100万円

高貝就　：基盤研究C　（主任・3年間）血清メタボローム解析による自閉症脂肪酸代謝異常の解明と診断マーカーの確立、平成25～27年度、150万円

涌澤圭介：若手研究B　前頭-頭頂葉機能インバランス仮説に基づく自閉性障害の脳機能解明と評価指標作成、平成25年度～平成28年度、70万円

山田浩平：若手研究B　恐怖不安関連因子stathmin1のTLR3を介したミクログリア活性化機構の解明、平成26～28年度、100万円

伊藤大幸：若手研究B　自閉症者の愛着感情、道徳感情およびユーモアの特異性に関する機能的脳画像研究、平成24～26年度、120万円

片桐正敏：若手研究B　社会性と認知機能の関連性の探究－社会スキル支援へ向けての基礎的研究－、平成22～平成26年度、60万円

（２）厚生労働科学研究

土屋賢治：成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（分担・2年間、主任：横山徹爾）、低出生体重児の予後及び保健的介入並びに妊婦及び乳幼児の体格の疫学的調査手法に関する研究、平成24～26年度、150万円

高貝就　：障害者対策総合研究事業（分担、主任：弘前大学神経精神医学講座　中村和彦)発達障害を含む児童・思春期精神疾患の薬物治療ガイドライン作成と普及、平成26年～28年度）50万円

（４）財団助成金

土屋賢治：先進医薬研究振興財団　一般研究助成（主任・1年間）、Ka-o-TV：幅広い年齢の自閉症スペクトラム児に対応した客観的診断指標の開発、平成26～27年度、100万円

浅野良輔：発達科学研究教育センター発達科学研究教育奨励賞　18ヵ月児の攻撃性発露メカニズムの解明：大規模出生コホートに基づく検討　平成26年9月～平成27年9月　50万円

（５）受託研究または共同研究

1. 独立行政法人科学技術振興機構　脳科学研究戦略推進プログラム（精神･神経疾患の克服を目指す脳科学研究（健康脳））＜課題Ｆ＞, 自閉症の病態研究と新たな診療技法(診断・予防・治療)の開発, H24～27年度、分担： 0万円, 研究代表者：精神医学　森則夫
2. JST社会技術研究開発　研究啓発成果実装支援プログラム, 発達障害の子どもへの早期支援のための『気づき』・診断補助手法の実装、H24～27年度、分担： 0万円, 研究代表者：大阪大学大学院、片山泰一

（６）奨学寄附金その他（民間より）

1. Trajectories of language and motor developments in infants of a representative sample of the general population in Japan and influences of breastfeeding on these developments: a prospective birth cohort study. 日本イーライリリー株式会社（Lilly Grant Office）平成 26 年 8 月、70 万円

7　学会活動

	国際学会	国内学会
（１）特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
（２）シンポジウム発表数	0 件	15 件
（３）学会座長回数	0 件	2 件
（４）学会開催回数	0 件	0 件
（５）学会役員等回数	1 件	2 件

（６）一般演題発表数	8 件	

（１）国際学会等開催・参加

5）一般発表

口頭発表

1. Ito H.: Three-factor model of humor elicitation: Beyond the incongruity versus incongruity-resolution debate. The 28th International Congress of Applied Psychology. Paris. 2014.

2. Iwata K, Matsuzaki H, Manabe T, Martins-de-Souza, Takei N.: Alteration of the expression balance of HNRNP C1 and C2 changes the expression of myelination-and schizophrenia-related genes in the human neuroblastoma cell line. *Schizophrenia Research* 153: S151-152, 2014. 4th Biennial Schizophrenia Internationa Research Conference. 5-9 April, Florence, Italy.

3. Lam S, Wakuda T, Li Q, Wei R, Zhang X, Sham PC, Wang Y, Chua SE, Takei N, McAlonan GM.: Effect of Perinatal Asphyxia on Protein Expression in Rat Prefrontal Cortex during Postnatal Development. 2014 International Meeting for Autism Research. May 14-17, 2014. Atlanta USA.

4. Mundalil Vasu M, Anitha A, Thanseem I, Suzuki K, Tsujii M, Sugiyama T, Mori N,: Serum Microrna Profiling in Children with Autism. International Meeting for Autism Research (IMFAR) 2014

ポスター発表

1. Haramaki T, Tsuchiya KJ, Nakahara R, Wakuta M, Suzuki K, Mori N, Katayama T.: Ka-o-TV,: an eye gaze detector for early diagnosis of ASD phenotype. The 13th International Meeting for Autism Research, Atlanta GA, May 15-17, 2014.

2. Asano R, Harada T, Kugizaki Y, Nakahara R, Nakayasu C, Okumura A, Suzuki Y, Takei N, Tsuchiya KJ.: Mothers' broader autism phenotype increases their infants' aggression: Hamamatsu Birth Cohort Study. Poster session presented at the 26th Annual Convention of the Association for Psychological Science. San Francisco, April 2014.

3. Matsuzaki H, Iwata K, Nakamura K, Tsujii M, Mori N.: Specific Hypolipidemia Caused By VLDL Lipolysis in Children with ASD. International Meeting for Autism Research (IMFAR) 2014.

4. Iwata K, Matsuzaki H, Katayama T, Mori N.: Modulation of the Serotonin Transporter By Interaction with N-Ethylmaleimide-Sensitive Factor. The 13th International Meeting for Autism Research, Atlanta GA, May 15-17, 2014.

（２）国内学会の開催・参加

3）シンポジウム発表

土屋賢治：座長：予防精神医学の可能性を探る．第 55 回日本児童青年精神医学会総会, 2014 年 10 月 11～13 日，浜松.

土屋賢治：座長：自閉症スペクトラムの臨床精神医学的研究の課題と挑戦．第 110 回日本精神神経

学会学術総会, 2014 年 6 月 26～28 日, 東京.

高貝　就: 教育講演(8):コホート研究から ASD を理解する-HBC study の紹介-、第 55 回日本児童青年精神医学会総会、平成 26 年 10 月 13 日、浜松.

涌澤圭介：宮城県極低出生体重児発達支援事業「さとめんこ」における自閉症スペクトラム児スクリーニングの中間報告.

浅野良輔：教育心理学におけるマルチレベル SEM の適用　企画: 荘島宏二郎　媒介分析とマルチレベル SEM とメタ分析についてじっくり聞く　日本教育心理学会第 56 回大会発表論文集, 92-93.　神戸大学 (於: 神戸国際会議場).

伊藤大幸 :Vineland 適応行動尺度第二版. 日本心理学会第 78 回大会自主シンポジウム（自閉症スペクトラム障害のアセスメント最前線；話題提供）. 2014.

伊藤大幸：谷伊織. Mplus を用いた多変量解析の実践：基礎から発展的手法まで. 日本心理学会第 78 回大会チュートリアルワークショップ. 2014.

伊藤大幸：児童・青年の発達とメンタルヘルスに関する大規模縦断研究—書字・学習、情動調整方略、性別違和感との関連から—. 日本発達心理学会第 25 回大会自主シンポジウム（企画・話題提供）. 2014.

片桐正敏：一般児童青年における強迫傾向と抑うつ、攻撃性との関連－大規模コホート調査に基づく縦断的検討－. 第 111 回日本小児精神神経学会, 2014.6.13-14, 東京.

片桐正敏, 伊藤大幸 : 児童期、思春期における学業成績と発達障害特性の関係. 日本心理学会第 78 回大会, 2014.9.10-12, 京都.

片桐正敏, 辻井正次：児童期，思春期における社会スキルと発達障害特性の関係. 第 55 回日本児童青年精神医学会総会, 2014.10.11-13, 浜松.

片桐正敏：低学年の書字能力は子どもの情緒・行動面と関係があるか？～小学校二年生の書字能力と抑うつ，攻撃性の関係～. 日本 LD 学会第 23 回大会, 2014.11.23-24, 大阪.

村山恭朗：一般小中学生における性別違和感とメンタルヘルスの関連　発達心理学会第 26 回大会,2015 年 3 月，東京都.

浜田　恵：一般児童青年に見られる癖・こだわりの行動と情緒的・行動的問題との関連　小児精神神経学会第 111 回大会　2014 年 6 月，東京都

浜田　恵：一般小中学生における性別違和感とメンタルヘルスの関連　発達心理学会第 26 回大会,2015 年 3 月，東京都.

（３）役職についている国際・国内学会名とその役割

武井教使：International Congress on Schizophrenia Research（国際統合失調症学会）
ICSR: Academic Board Member
日本 DOHaD 研究会理事

土屋賢治：日本 DOHaD 研究会理事

８　学術雑誌の編集への貢献

	国　内	外　国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	1 件	9 件

（１）国内の英文雑誌等の編集

土屋賢治：子どものこころと脳の発達、Editorial Board、編集委員長：鈴木勝昭、PubMed 登録[IF=0]

（２）外国の学術雑誌の編集

武井教使：国際専門誌(peer-review journal)の editorial board member（編集委員）

1.*European Psychiatry*[IF=3.21]誌の statistical adviser
2.*Acta Psychiatrica Scandinavica*[IF=5.545]誌の editorial board member
3.*British Journal of Psychiatry*[IF=7.343]誌の editorial board member
4.*Psychological Medicine*[IF=5.428]誌の editorial board member
5.*Schizophrenia Bulletin*[IF=8.607]誌の editorial board member
6.*Journal of Neurodevelopmental Disorders*[IF=3.705]誌の editorial board member
7.*PLOS ONE*[IF=3.534]誌の statistical advisory board member
8.*PLOS ONE*[IF=3.534]誌の Academic Editor

土屋賢治：国際専門誌(peer-review journal)の editorial board member（編集委員）

1.*PLOS ONE* [IF:3534]誌の Academic Editor

（３）国内外の英文雑誌のレフリー

土屋賢治：*PLOS ONE*（米国）、3 回
Acta Psychiatrica Scandinavica（デンマーク）、1 回
Journal of Obstetrics and Gynaecology Research（日本）、1 回

９　共同研究の実施状況

	平成 26 年度
（１）国際共同研究	1 件
（２）国内共同研究	9 件
（３）学内共同研究	2 件

（１）国際共同研究

1. 精神科疾患をもつ患者の身体疾患の有病率調査、デンマーク、ドイツ、イタリアなど。
   オールボー大学精神科　Povl Munk-Jorgensen 教授

（２）国内共同研究

1. 発達障害の生物学的研究、理化学研究所　吉川武男シニアリーダー、共同研究.
2. 発達障害の遺伝学的研究、国立成育医療研究センター　周産期病態研究部　秦健一郎先生、共同研究.
3. PET による発達障害のセロトニン仮説の証明、浜松ホトニクス、機器・施設利用による共同研究
4. 発達障害の血清学的研究、千葉大学　橋本謙二先生、共同研究.
5. 自閉症診断補助装置の開発、静岡大学工学部システム工学科　海老澤嘉伸教授および大阪大学大学院　片山泰一教授、共同研究.
6. 発達障害の早期発見をめざしたコホート研究（対象者収集とデータ解析）、国立健康科学院　横山徹爾部長、共同研究.
7. 発達障害の診断法、国立精神神経センター　児童思春期精神保健部　神尾陽子先生、共同研究
8. わが国における Developmental origins of Health and Disease（DOHaD）研究の方向性の検討、国立健康・栄養研究所　栄養教育研究部　瀧本秀美部長および国立保健医療科学院　生活環境研究部　佐田文宏部長、共同研究.

9. 大規模コホート研究における追跡法の調査、国立保健科学医療院　生涯健康研究部、横山徹爾部長、情報および技術提供.

（３）学内共同研究

1. 精神疾患の PET 研究、メディカルフォトニクス研究センター　生体機能イメージング研究室　　尾内康臣教授.
2. 発達障害の早期発見のためのコホート研究、産婦人科学講座　金山尚裕・伊東宏晃教授、 精神医学講座　森則夫教授.

10　産学共同研究

	平成 26 年度
産学共同研究	2 件

1. JST社会技術研究開発　研究啓発成果実装支援プログラム, 発達障害の子どもへの早期支援のための『気づき』・診断補助手法の実装（分担・4年間、主任：大阪大学大学院、片山泰一）。受託、（株）JVCケンウッド、佐賀市と共同開発、平成24～27年度。開発分担金2000万円の補助を、さらに26年度は940万円の追加補助を受け、自閉症の乳幼児期における客観的早期診断を行うためのハードウェア・ソフトウェアの開発と社会実装を行っている。
2. ㈱JVC ケンウッド: 自閉症の早期診断の意義と、診断指標として用いられる注視点分布の解析法。

12　研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 脳画像研究：PET を中心とした発達障害の病態解明に貢献.
2. 社会心理学的研究：子どもの発達に沿った課題とその対策を発信.
3. 疫学研究：乳幼児の発達パターンの解明.

13　この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

1. 被災地支援（福島県）　震災直後より継続的に行ってきた福島県浜通り地区の教育支援において、福島県教育委員会との連携を強め、また継続的支援とそのニーズを正確にとらえるための調査を継続的に行っている（福島県スクールーカウンセラー等派遣事業、平成 26 年福島県子どもの心のサポートアドバイザーなど）。
2. 科学的根拠のある子育て支援を地域でサポートするための「ペアレント・プログラム」を開発し、普及した。（独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業「子育てにおける保護者支援と支援者研修」、厚生労働省障害者総合福祉推進事業「市町村で実施するペアレントトレーニングに関する調査について」、など）
3. Gazefinder（乳幼児の社会性の発達の評価装置）の開発を継続しつつ、社会実装に着手し、各地自治体における 1 歳 6 ヶ月乳幼児健診での活用を進めた。（大阪大学、株・JVCKENWOOD と共同開発）

14　研究の独創性，国際性，継続性，応用性

子どものこころの発達研究センターは、近年取り沙汰されることの多い「子どものこころの危機」のありようを解明し、その科学的な対処法を発信する大学連合組織である。現在、国内 7 大学（大

阪、金沢、福井、千葉、浜松医科に加え、26 年度より鳥取、弘前が加入）との連合のもと、他に例のないミッションを掲げた大学連合は研究のみならず専門家の養成にも成果を上げ始めている。具体的には、インクルーシブ教育カリキュラムに対応可能な早期発達支援プログラムや、いじめ防止プログラムの作成を、5 大学連合を中心に 5 大学連合で研究成果を上げた研究者たちが中心になって担当した。これらのプログラムは全国の教育現場への普及が間近である。また、5 大学連合の研究・教育の成果に対する反響は大きく、平成 26 年度より鳥取大学、弘前大学にもあらたに「子どものこころの発達研究センター」が設立され、5 大学と連合することとなっている。